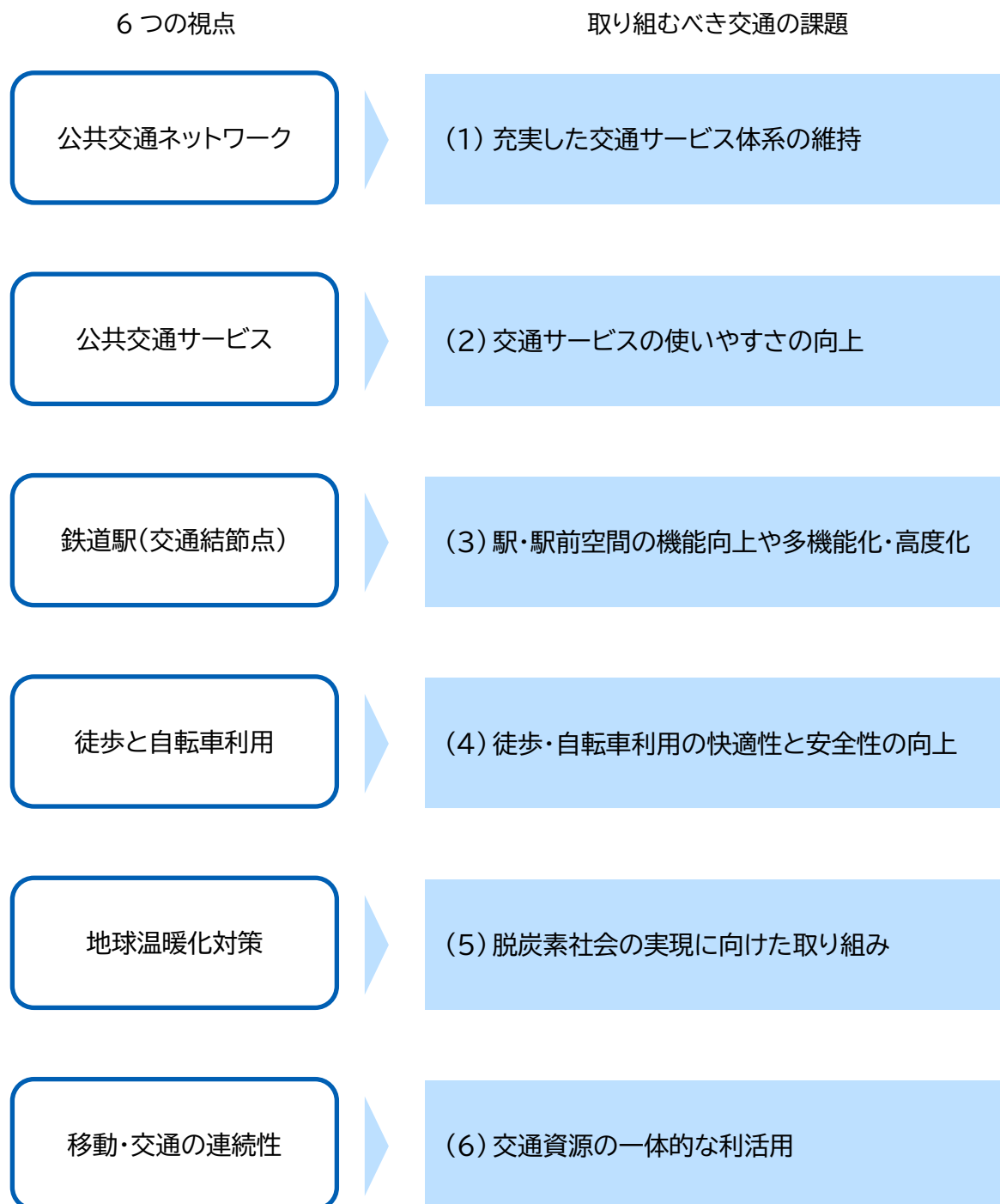


第3章 本市の交通の課題

第3章

本市の交通の課題

前章の「本市の交通の現況」を踏まえて、次の6つの視点から現況等を整理し、本市において取り組むべき交通の課題を抽出しました。



公共交通ネットワークについて

〔現況の整理〕

- ・本市では、「繋がりが生まれる都市づくり」を進めるため、鉄道駅を核とした「人中心の移動ネットワークの形成」を都市づくりの基本方針の一つとしています。
- ・公共交通を利用して市内のほとんどの公共施設へアクセスすることができ、公共交通網はおおむね充足していると言えます。
- ・高齢者の交通手段では、バス交通の利用割合が特に高くなっています。(2020年度市民アンケート調査)
- ・鉄道やバス等の公共交通に加えて、「のりあい」や福祉有償運送などの市民や地域による取り組みが進められてきています。
- ・公共交通・交通サービスを支える担い手不足は深刻化しています。
- ・近年の新型コロナの感染拡大による外出自粛、リモートワークなどの新しい生活様式の浸透により、公共交通の需要の低下がみられます。

取り組むべき交通の課題(1)

充実した交通サービス体系の維持

- 本市の公共交通網はおおむね充足しており、これを維持していくことが必要です。
- 公共交通網の維持のためには、交通需要の確保と持続可能な運営が必要であるとともに、地域や市民が一体となって地域の公共交通を守り育てていく意識が必要です。

公共交通サービスについて

〔現況の整理〕

- ・ 3つの鉄道が走り、8つの鉄道駅があることから、鉄道利用に対する満足度は高くなっています。(2020年度市民アンケート調査)
- ・ 駅へのアクセス手段ではバス利用が1割程度です。また、市民アンケートではバス利用に関する各設問に「分からない」との回答が多く、バスを利用していない市民が多いことが伺えます。
- ・ バスの運行本数やバス停環境については、満足度が低くなっています。(2020年度市民アンケート調査)
- ・ バス・タクシー事業者により、バリアフリー対応車両の導入が着実に進められていますが、さらなる導入推進が求められています。
- ・ 鉄道・バス・タクシー事業者では、より便利に利用してもらうためにお得な乗車券や割引制度、子育て支援タクシーの運行などの様々な取り組みを展開していますが、あまり多くの方には知られていない状況にあると考えられます。

取り組むべき交通の課題(2)

交通サービスの使いやすさの向上

- より多くの人々に公共交通を利用してもらうためには、交通サービスとしての使いやすさを向上させる必要があります。
- 利用者目線での「使いやすい、使いたい」交通サービスへと改善していくとともに、新たな需要の掘り起こしにつながる様々な交通サービスを広く周知していくことが必要です。

鉄道駅(交通結節点)について

〔現況の整理〕

- ・「大和市立地適正化計画」では、本市のコンパクトな都市構造の生かしたまちづくりを進めるため、駅や駅周辺の拠点性を強化していく方針としています。
- ・駅・駅前広場には、様々な交通手段をつなぐ交通結節機能を発揮することが求められますが、中央林間駅については鉄道同士の乗り換えに対する満足度が低くなっています。(2020年度市民アンケート調査)
- ・駅施設のバリアフリー化の一つとしてホームドア整備が各駅で着実に進められていますが、さらなる安全確保に向けて整備推進が求められています。
- ・駅前に必要な機能として「快適に歩ける歩道空間」を求める声が多くなっています。また、駅前での自転車の駐輪のしやすさについて満足度が低くなっています。(2020年度市民アンケート調査)

取り組むべき交通の課題(3)

駅・駅前空間の機能向上や多機能化・高度化

- 駅・駅前広場は、様々な交通機関・交通手段の接点となる空間であり、スムーズな乗り換え（モードチェンジ）ができるように、交通結節機能の向上やさらなる改善が必要です。
- 駅・駅前広場では、交通結節機能に加え、人々が集まる交流の場の中心としての特性を発揮し、周辺市街地と一体となった居心地の良い魅力的な駅まち空間づくりが求められています。

徒歩と自転車利用について

〔現況の整理〕

- ・本市は駅がバランスよく配置され、各駅の1km圏内に人口の8割以上が居住していることから、駅へのアクセス手段では徒歩が7割を超えています。
- ・高齢者からの「歩いている途中で気軽に休憩できる施設が欲しい」という要望や、道路のバリアフリー化やきめ細やかなメンテナンスへの要望が聞かれます。
- ・本市では、自転車を有効に活用し、健康な生活を送ることのできるまちに向けて、自転車利用環境の整備に取り組んでいます。その一方、自転車利用者の交通ルール遵守を求める要望も聞かれます。
- ・子どもをはじめとする歩行者の交通事故防止に向け、生活道路の安全対策については継続的な取り組みが求められています。
- ・近年では高齢ドライバーによる悲惨な交通事故も発生しており、身体能力や認知能力が衰える高齢ドライバーへ向けた交通安全の取り組みが求められています。

取り組むべき交通の課題(4)

徒歩・自転車利用の快適性と安全性の向上

- 徒歩や自転車で駅までアクセスしやすいコンパクトな都市構造は本市の最大の特長であり、これをより発揮していくため、歩行環境・自転車利用環境の安全性と快適性の向上に取り組むことが必要です。
- 道路のバリアフリー化や休憩場所づくりなど、出かけたくなる、歩きたくなるまちなか環境の形成が必要です。
- 子どもをはじめとする歩行者の交通事故防止に向け、より一層の交通安全対策が必要です。

地球温暖化対策について

〔現況の整理〕

- ・ 2050年のカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けて国レベルでの取り組みが加速しており、本市においても2022（令和4）年4月に「大和市気候非常事態宣言」として脱炭素への取り組みの主な方針を示しました。
- ・ CO₂排出量の約2割を占める運輸部門において地球温暖化対策は喫緊の課題であり、燃費改善や物流効率化等による省エネルギーのほか、次世代自動車の普及促進が求められています。
- ・ 自動車利用により生じる環境への負荷や交通事故、道路交通混雑などの問題について考え、市民一人ひとりがクルマのかしこい使い方に取り組むことが望まれます。

取り組むべき交通の課題(5)

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

- 公共交通事業におけるCO₂排出削減に向けた取り組みをさらに進めていくことが求められています。
- 自家用車での移動を徒歩や自転車、公共交通による移動に変える、次世代自動車の使用を選択するなど、クルマのかしこい使い方について普及啓発していくことが必要です。

移動・交通の連続性について

〔現況の整理〕

- ・本市の公共交通網はおおむね充足していますが、鉄道とバス、鉄道と自転車の乗り継ぎについては満足度が低く、一体的な交通ネットワークとしての利活用に向け、改善の余地があります。
- ・高齢化の進行に伴って移動に不自由を感じる高齢者は増加しており、既存の交通サービスの「すき間」となる部分での移動ニーズが増えていくものと考えられます。
- ・近年、運行情報や経路検索をスマートフォンのアプリとして提供するサービスが普及してきているほか、経路検索にとどまらず一括予約・決済までをカバーする「MaaS (Mobility as a Service)」という概念や、それを実現するサービスが登場し始めています。
- ・環境への負荷が少なく、狭い路地も通行が可能なグリーンスローモビリティなどの新たなモビリティの開発や実証実験の取り組みが進められています。

取り組むべき交通の課題(6)

交通資源の一体的な利活用

- 既存の充足した公共交通網を最大限に活かせるよう、あらゆる交通手段を一体的なネットワークとして利活用していくことが必要です。
- MaaS や新たなモビリティなどの最新の動向を把握し、本市の交通環境をより便利にできる方策を継続的に検討する必要があります。